

第21回八幡湿原自然再生協議会議事録（要旨）

- 1 日 時 平成24年2月18日(土) 13:30～15:30
- 2 場 所 山県郡北広島町有田 千代田中央公民館
- 3 出席委員 委員総数30名中20名出席
- 4 議 事
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 平成23年度の活動報告
 - ① 地下水位観測
 - ② 西中国山地自然史研究会
 - ③ 昆虫類調査
 - ④ 空中写真撮影
 - ⑤ 植物群落調査
 - ⑥ 観光協会によるガイド
 - ⑦ 維持管理活動
 - ⑧ 本の出版
 - (2) 次年度以降の活動
 - ① 維持管理活動について
 - ② 湿原の保全と利用について
 - (3) 事業評価について
 - 5 その他
- 5 担当部署 八幡湿原自然再生協議会事務局（広島県環境県民局自然環境課）
電話：（082）513-2933（ダイヤルイン）

6 会議の内容

1 開会

【会長挨拶】

- ・ 自然再生事業，やることに意味がある，必要であればやるんだという認識が必要。自然をベースに，それを売り出すのであれば，それをよしとするもので可，はっきりとした使命を持つことが必要。
- ・ 協議会メンバーが道楽で調査などをやっているわけではなく，生き物のために，失われてはいけないもののためにやっているだという発想が根本にないといけない。
- ・ EPO 中国から，ある保険会社が各都道府県で地域で自然保護や自然観察のために活動している団体に資金を出すことを打診してきており，八幡湿原を一番の候補に考えている，と連絡があった。ぜひお願いしたいと回答している。
- ・ 岡山理科大の学生の卒論で八幡の自然再生を取り上げられた。引用文献では過去の協議会の議事録がずらっと並んでいる。このような公明正大な協議会が続けられてきたのも，委員の皆さんのおかげである。

2 議題

(1) 平成23年度の活動報告

①地下水位観測（広島県（事務局）報告）

- ・ これまでの地下水位観測データを取りまとめ、再生工事前後の地下水位を比較し、再生工事による水環境の変化等について報告

②西中国山地自然史研究会（大竹代理委員報告）

- ・ NPO法人西中国山地自然史研究会で実施された、いきもの観察会、植生調査、カスミサンショウウオの産卵調査及び野鳥観察会等について報告

③昆虫類調査（石谷委員欠席のため事務局が代理で報告）

- ・ 水田委員、石谷委員等により行われたヒメシジミの調査結果について報告

④空中写真撮影（山場代理委員報告）

- ・ 平成23年9月6～7日に実施した、小型自律飛行ロボットによる「空撮モニタリング」について報告

⑤植物群落調査（広島県，中外テクノス㈱報告）

- ・ 平成23年度に行った植物群落調査の調査結果の概要について報告

⑥観光協会によるガイド（白川委員欠席のため事務局が代理で報告）

- ・ 芸北トレッキングガイドの会による活動状況の概要を報告

⑦維持管理活動（事務局報告）

- ・ 平成23年4月23日に協議会で実施した維持管理活動の概要を報告

⑧本の出版（野村委員報告）

- ・ 本の出版についての進捗状況を報告

【質疑応答】

（会長）

- ・ 外来生物の研究者から聞いた話だが、外来生物の排除は、引き抜く、取り除くだけではなくて在来生物が生育できるような環境を整えてやることも重要だとのこと。考え方をポジティブにすることも必要。

（委員）

- ・ 2年前に協議会員以外の方がヒメシジミを調べたいと言ってきたが、その調査結果はどうなっているか、事務局で把握しているのか。

（会長）

- ・ 協議会の方に調べた結果を提供するようにはしていただきたい。ヒメシジミに限らず、協議会ではこうした調査に対して支援はするが、成果は協議会に必ず提出して蓄積するということで、徹底していただきたい。

（委員）

- ・ 様々な研究が行われることは、八幡にとっても財産になる。この協議会がプラットフォーム的なものになれば理想的である。

[植物群落調査について]

(会長)

- ・ 前回と今回の絶対値を比較しているが、元の植生の何が何に変わったかを確認することが重要。
- ・ 導水路などの工事が湿生群落にどのくらい貢献したかの評価が必要。
- ・ 枯れたマツの木の取り扱いについて議論が必要。専門家も交えて別の機会で議論を。
- ・ 一番最初に除去しようと考えていたノイバラなどがまだ残っていることを確認。

(委員)

- ・ トモエソウが広がってノイバラが減ったのは、工事の効果ではなくて4月に刈ったからではないか。水路だけで湿原化するのは難しいだろうから、草刈りなどの人為的な維持管理も必要。

(委員)

- ・ 導水路により水が回るようになったことと植生との関係をもっと突っ込む必要がある。水文調査の特性と植生調査の特性の関係性をつかめるといいのではないか。

(委員)

- ・ 区域内の水収支の調査ができないだろうか。

(会長)

- ・ 水文の専門家が霧ヶ谷湿原での調査を検討しており相談を受けているので、その調査結果を出していただくようお願いしたい。

[観光協会によるガイド]

(会長)

- ・ 自然再生事業はどの地区も元気がなくなってきているが、事業地をどのように活用していくかが課題となっている。白川委員の発表は、現在の利用状況を分析して今後のニーズに対してシーズをどう整理するかということでもとめたもの。
- ・ 学校から学習に来る場合に、ここでの学習がどういう科目の何時間分に当たるかといったことの算出が必要。ぜひ教育委員会の方をお願いしたい。協議会としてバックアップする。
- ・ ガイドについては、来訪者が増えたら16名では対応は困難なので、人数を拡大していただきたい。

(委員)

- ・ 北広島に来た人が、町内に素晴らしい場所があるのにあまり認知していないことが多いので、こうしたガイドの存在は重要。観光協会としても広げていきたいと考えている。
- ・ 今までは要請があれば出ていたが、去年は、西中国山地自然史研究会と連携して、要請が無くとも土日は高原の自然館に待機して勉強したり少人数での急な要請でも出ていたりしていた。

(2) 次年度以降の活動

①維持管理活動について（事務局）

- ・ 今年度も引き続き同じ場所で維持管理活動を実施する。日程は、平成 24 年 4 月 22 日を予定。参加できる人はぜひご参加を。

(委員)

- ・ 今年度は 4 月と 11 月の 2 回やるはずだったが、1 回しかやらなかった。来年度はどうするのか。

(会長)

- ・ 11 月は協議会としてはやってないが、別の NPO か何かの活動で行っている。来年度は 4 月 22 日に加えて 11 月にも開催する。

②湿原の保全と利用について（事務局）

- ・ 湿原の保全と適切な利用について、北広島町の生物多様性条例の保護区にしてはどうかという意見が今年の協議会でも出された。このあたりの可能性についても議論をお願いしたい。

(会長)

- ・ 雲月山では保護区に指定し、規制ができるようになった。八幡湿原でも同じように展開したい。県管理の場所なので調整が必要だが、できるだけ早い時期に保護区に設定させていただきたいと考えている。その場合、霧ヶ谷湿原だけではなく周辺の湿原などもセットで指定するべきである。

3 その他

(1) 事業評価について（事務局）

(事務局)

- ・ 平成 24 年度に予定している事業評価の取りまとめ方法の案を事務局から提示。協議会の下部組織として作業部会を設置し、分野ごとに班を設置して事業評価案を作成し、協議会で審議・決定する。それを受けて平成 25 年度以降の維持管理やモニタリング等に活用するとともに、必要に応じて「八幡湿原自然再生事業実施計画」の見直しを行う。

(会長)

- ・ 事業評価書は環境省が出すものなのか、それとも協議会で出すものなのか。

(事務局)

- ・ 協議会として出す。法定のものではない。

(会長)

- ・ 部会メンバーだけではなく協議会全体の仕事である。ぜひご協力をいただきたい。
- ・ 来年度の本の出版とちょうど重なる。本の内容も評価書に組み込んでいただきたい。

(2) 臨時部会について（野村委員）

(委員)

- ・ 事業地の継続的な維持・管理・運営に向けて、事前に数名で集まって議論を行った。

本の出版の議論の中で、今後の事業地の継続的な維持・管理・運営に向けてもう少し幅広い議論を行いたいということになった。

(会長)

- ・ 本の中心は湿地に戻す努力というところである。色々と議論して書き込んでいただきたい。
- ・ 生物多様性に係る企業のCSR活動については、その後どうなっているのか。

(委員)

- ・ 以前、ある企業から生物多様性に係る活動をしたいと言う話があったが、震災があった関係もあって実現には至ってない。しかし今後も必ずこのような話は必ず出てくる。

(委員)

- ・ 生物多様性を話すに当たっても、特にチョウやトンボについては現地の調査が十分ではない。誰か現地に近い人で調査ができる人を育成する必要がある。
- ・ イノシシも侵入しており、影響について考える必要がある。

(会長)

- ・ 学校などの活動や授業の話もあるので、その中で指導できるような形を検討している。

(3) 平成23年度自然再生協議会情報連絡会議（事務局報告）

- ・ 平成24年2月2日～3日に静岡県で開催された「自然再生協議会情報連絡会議」の概要を報告

(4) 岡山理科大学学生の卒業論文について（事務局報告）

- ・ 岡山理科大学の学生が八幡湿原自然再生事業をテーマとして取組んだ卒業論文を紹介

会議資料

- 資料1 第21回八幡湿原自然再生協議会出席者名簿
- 資料2 八幡湿原自然再生協議会設置要綱
- 資料3 平成23年度の活動報告
- 資料4 事業評価について
- 資料5 平成23年度自然再生協議会情報連絡会議
- 別冊 八幡湿原自然再生事業実施計画（平成18年10月）
八幡湿原自然再生事業植物群落調査・解析業務報告書（平成23年12月）
岡山理科大学社会情報学科井上研究室卒業研究論文集（抜粋）（平成24年3月）